

けたはづれの新聞記者

伊藤慶之助

△画家・春陽会会員▽

昭和三年十月、渋いコートに身を包んだ失意の佐伯米子が、祐三と愛児弥智子の二個の遺骨を抱いてフランスから北野丸で神戸に帰つて来た。そして同年十一月五日、中津の光徳寺で佐伯祐三の本葬がいとなれた。私は翌四年二月にフランスに出発したが、そんな色々のことが続いて絵もかげず、神戸に出かける用事が多かった。

当時、友人大塚銀次郎が毎日新聞神戸支局におり、平野零児、岩崎栄、平田外喜二郎など、けたはずれの愉快な大将がそろつているので、神戸に出てると足は自然に相生橋の毎日支局に向いてしまう。この相生橋の古風な陸橋から石段を下の道路に下りた所に支局があつた。当時新聞のニュースをさわがせた刈屋沖潜水艦沈没事件があつた。他社との取材の競合になると、けたはづれの常識ばなれの零児が出ることが多いので、彼をさがしが見つからない。福原遊廓だろうと彼のなじみの妓楼に行くと、服と靴がぬいであるのに姿が見えない。またいつもくせだらうと附近の妓楼をあちこちさがすと、どてらを着たままで屋根をつたって他の妓楼に上り込んでいた。やつとのことで見つかったが、報道記者を乗せて現場に行くラ

ンチが突堤を出る時刻がせまっているので、仕方なく妓楼のどてらの上に借りたマントを着て妓楼の焼印をおした下駄ばきでランチに乗り込んだ。

やれやれまずこれでひと安心と前を見ると神戸新聞の若い本田記者が伝書鳩を持っている。ランチに電話はなく、本社への通信に伝書鳩を使用されてはたまらない。神戸新聞にマンマとしてやられると考えた零児は、フランチとよろめいた恰好をして、足で籠をけとばして鳩を逃がしてしまった。鳩を逃がされ功名をフイにした若い本田記者は、社に帰つて上司に油をしぼられ、ひどいめに逢つた。零児はニタリとほくそ笑んだが、あとになつてすまない気がして自分に責任を感じ、毎日新聞本社で事情を話して本田記者を神戸新聞から毎日新聞社に引きとつてもらつた。零児に鳩を逃がされてベソをかいだ若き本田記者は、毎日新聞に入社してから徐々に頭角をあらわし、終戦後、毎日新聞社長になられた本田親男その人である。零児の脱線ぶりは童心に近い無邪気さがあるので人気があつた。

当時神戸に高木弁護士という、これも変り種の人があつた。弁護を依頼されている男が気にくわ

ないといって、法廷で彼を罵倒してさっさと帰ってしまったという逸話の持主である。

大晦日の夜、ことしは不景気だから門松だけは立派なでっかいやつを立てようと、除夜の鐘がなり始めてから湊川新開地の市に行つてでっかい門松を値切つて買った。弁護士と零児はしばらく重い門松を一人でかついで歩いたが、やりきれないなり、ねをあげてタクシーを呼んで積み込んだ。花隈の花街のそばを走つている時、ふと思いついて寒いから茶でも飲んで行こうと行きつけの芸者

屋に立ち寄った。芸者屋では、元旦の未明に門松を持った“げん”的良いお客様だと下へも置かない

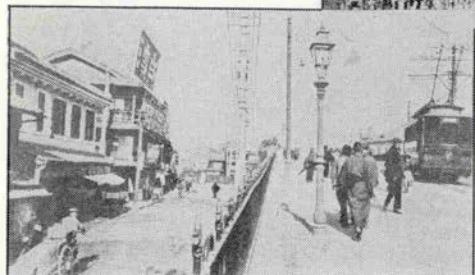
歓迎ぶりで、二人は好い気分で調子にのつて二日間居続けてしまった。三日の朝、でっかい門松をまたタクシーに乗せ、唇をぬぐつてまじめな顔をして高木邸に帰ってきたが、高木夫人は全くあきれてもものもいえない放心状態で一人を迎えた。

明治の末、市電が通りはじめた相生橋（現在の神戸駅東、ガード付近）名物のガス灯、電灯が輝く橋が神戸の東西をつなぐ場所だった。

写真提供／荒尾親成



◆相生橋



零児は馬場孤蝶の弟子で、死後、尾崎士郎が平野零児遺稿集を出版されている。

彼は馬場孤蝶の弟子で、死後、尾崎士郎が平野零児遺稿集を出版している。

福原遊廓、木造三階建青楼の景観▶

明治初年、ようやく流行の二人乗り人力車が店頭にならべられているのが珍しく吉原をお手本にした仲之町の桜もまだ若木のようである。

体育教官の情熱

高木正雄

△神戸商科大学学長▽

本館南階段の二階から三階へが途中で行き詰りになっているが、現在の教職員や学生の中にその理由を知っている者はほとんどいないであろう。昭和五年新校舎の建築が進行していたある日、横崎正雄助教授は伊藤校長から呼ばれ「横崎君、体育馆は来年度には必ず建てるから予算の関係上第一次の建築には遠慮してくれ」と半ば命令的に申し渡された。彼は非常に残念に思いながらも「止むを得ません」と力なく答え部屋を出かかったが、また引き返して「校長、一時間ばかり考えさせてくださいませんか」といい、引き下つて一小時間思案した。そして「こんなことで今遠慮したら必ずや将来も予算の関係で建たないこととなるう」と思ったので意を決して再び校長室にはいり「校長、お言葉を返すようですがどうしても体育馆は今年度に建てて頂きたいです。もし建たないのなら私は辞めさせてもらいます」と強硬にねばつた。そこで校長も仕方なく承知した。当時、日本有数の体育馆ともてはやされた本学の体育馆――今はみる影もないが――はかくして誕生し、その代りに三階と四階の特別教室がカットされ、従つて二階から上への階段は不要となつたのである。なお伊藤校長が横崎助教授の熱意に兜を脱ぐに至つたのには既にその下地があつた。というのは、ある日ドシャブリの雨の中を横崎さんが裸になつてひとりグラウンドに出て水の流れ道を作つて立った姿を校長が見て、彼の热情にいたく感服していつた一幕があつたのである。横崎正雄は東京高等師範在学中から中距離の

王者として大正から昭和初期にかけて活躍し、常にファイトの固まりであった。昭和四年七月から十二年七月までの八年間、体育教官として勤務したが単なる体操教師ではなく、課外活動としてのスポーツを奨励し、得意の陸上競技はもとより野球、蹴球、ラグビー、バスケット、バレーから柔道、剣道に至るまで、あらゆる部活動をみて廻つて、随分と学生を叱咤激励したものだ。彼は「スポーツは勝つことである」と断言してはばかりなかつた。当時は学生总数僅に四五〇名に過ぎなかつたが、非常にスポーツが盛んでかつその成績も相当なものであつた。往年名選手として知られ、今日もなお第一線で活躍している者も少なくはない。ラグビーの岡部誠一（そごう常任監査役、前神戸店長）、北野精一（日本触媒株社長）、浅見武（科研薬化工業株社長、サッカーの大谷一二（東洋紡績株社長）、野球の平野幸雄（今春北陸電力株副社長から北陸電気工事株社長に転出）、武本成行（川崎近海汽船株社長）、柔道の杉本茂（元丸善石油株副社長現アブダビ石油取締役相談役）、剣道の外山正夫（川崎興産株社長）、バスケットの秦志郎（神戸商工会議所専務理事）等々数え切れない。

垂水の新校舎が竣工して移つたのは完成年度の昭和六年四月であるが、風光明媚、眺望絶佳の丘の上にそびえるクリーム色の新学舎を中心とした学園には、若さと熱気がみなぎり意氣正に天を衝くの觀があつた。そしてこのような新進気鋭の気魄を譲成するのに最も与つて力が



伊藤校長の計らいにより、ロサンゼルスで開かれたオリンピックの視察にてかかる横崎助教授を見送る学生たち。(昭和7年6月21日、神戸港で) 円内が横崎助教授

い。そこで両者が一気に勝負を決しようと最後のひとふんばかりをやつた。咄!! さしもの太い綱が中央からブツツと真二つに断ち切れてしまった。もちろん競いあう両軍力余って総倒れとなり、ドーッと歓声をあげた。そこでこの切れた綱を結んで両者場所を交代してやり直したが、結果は同じで、双方の力が均衡して容易に勝負がつかない。そして数分、またもやこの綱が真中からブツツと切れてしまった。そこで勝負は預りということにし、後日新調の綱でやり直した時の感激を筆者は今なお忘れることができない。

昭和六年一月頃のことである。当時食堂を経営していた親爺さんはなかなかの元氣者で、威勢のよい声をはりあげて息子達や使用人達を指図して頑張っていた。その頃は和食だけで、うどん五銭、天丼十五銭、親子丼二十銭という今の若い人には想像もつかない値段であった。

ところがこの食堂の親爺さん、大した商売人で、学年始めの頃から比べると月日が経つにつれて段々と内容が質量ともに悪くなり、その上我慢がならないのは甚だ不衛生で食器類の洗滌が随分大ざっぱで、時には目に余るものがあつた。そこで有志が相談の上、ボイコットをやつて業者を懲らしめることにした。大方の学生はボイコットが断行されるとは知らず、昼食時には食堂へやつて來た。ところが食堂の入口附近には數名の猛者がビケをはついて近づくことを許さない。かくしてボイコットは完全に成功したのである。このボイコットの首謀者だったということで、筒井豊彦(現矢吹豊彦馬場大光商船社長)は特待生の第一候補であつたにも拘らずその選に洩れたということを、私は母校へ奉職してからある機会に恩師から聞かされた。

■ なお、横崎正雄先生は今なお要諱として福岡に在住、戦後長く福岡大学教授、初代体育部長として幾多の有名選手を輩出、現在福岡県における体育運動界の重鎮として活躍しておられる。たまたま神戸へ出向いて来られる時には、往年の教え子がいつでも集って、昔に還つて盛んに気炎をあげるのが常である。

この時はまだ三学年ではなく、一年生と二年生だけで各学年にABCの三クラスがあつた。まず最初に一年A組と二年A組が戦うことになつた。太い長い綱が運動場の中央に横たえられ「用意、始め!!」の合図とともに「オー」「エス」の掛け声高く両方から力一杯ひっぱつた。双方互角に相競うこと数分、どうしても勝負がつかなかつたといつても敢えて過言ではなかろう。

昭和五年十一月三日の体育ティーに当つて、校長盃のかかつた学年対抗競技会が催され、野球、蹴球、排球等九種目は各学年から出された選手によつて勝敗が決せられたが、最後の綱引だけは全校生徒が参加して行われることになつていた。

この時はまだ三学年ではなく、一年生と二年生だけで各学年にABCの三クラスがあつた。まず最初に一年A組と二年A組が戦うことになつた。太い長い綱が運動場の中央に横たえられ「用意、始め!!」の合図とともに「オー」「エス」の掛け声高く両方から力一杯ひっぱつた。双方互角に相競うこと数分、どうしても勝負がつかなかつたといつても敢えて過言ではなかろう。

□ ずいそう

長谷川三郎展を めぐつて

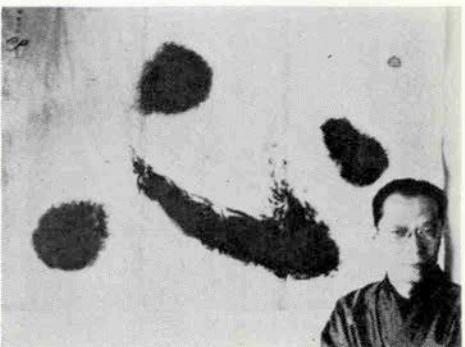
乾由明

八美術評論家▽

長谷川三郎の没後二十年を記念する大がかりな展覧会が、九月はじめから三週間にわたって兵庫県立近代美術館で開かれた。この画家の名前は、美術の専門家や一部の愛好者のあいだではよく知られているが、一般にはあまりなじみがないようと思われる。総合的な遺作展がこれまでほとんど開かれたことがなく、またまとまつた画集が一度も出版されていないために、作品の眼に触れる機会がなかつたからである。しかしそれ以上に、彼の画業が日本の画壇で正當に評価されず、商業的にもさほど問題にされなかつたことが、大きな原因であろう。今回の展覧会の開催、そして母校の甲南学園を中心とする「画・論 長谷川三郎」の刊行によって、ようやく彼の仕事が見直される氣運が高まってきたのは、当然のことながら、まこと

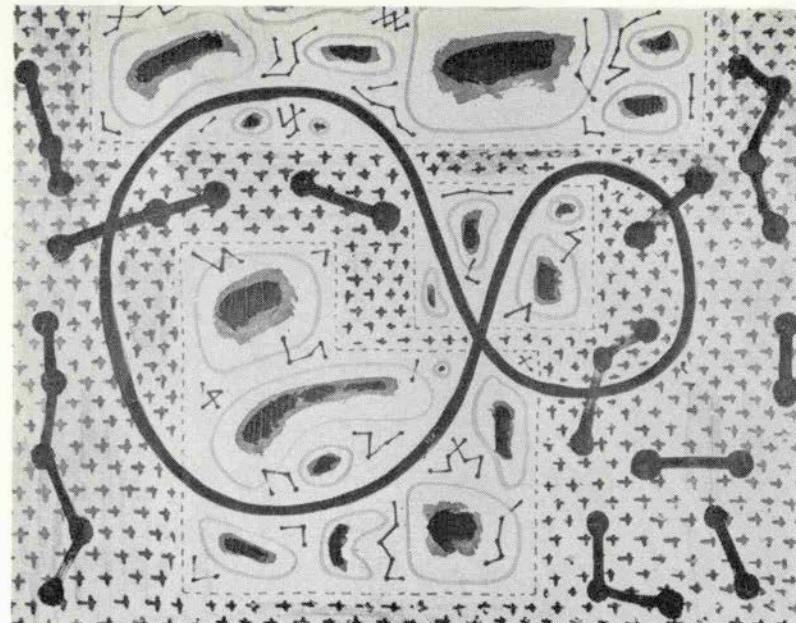
によろこばしいといわなければならない。

長谷川三郎は、戦前から戦後にかけての日本の近代絵画の展開において、逸することのできない大きな足跡をのこした画家である。昭和十代初頭から、新時代洋画展や自由美術展を中心に清新な感覚にあふれた作品を発表して注目され、さらには当時としては画期的な抽象絵画、写真、コレージュの制作へとすんで、戦前の前衛美術のもつとも尖鋭な旗手となつた。同時に評論や批評にもさかんに健筆をふるい、また晩年は渡米して、東洋と西洋の美意識を統合せんとする、独自の美学と実作をつうじて、アメリカの美術界に多大の影響をあたえたのである。これほど豊かな知性と確固とした信念をもつて、日本の美術の暗い谷間の時期を鮮烈に生き抜いた画家は、他に類がない。



長谷川三郎

ここ数年間、私は長谷川の画・論集の編集にたずさわっていたので、主要な作品はほとんど調査して知っていた。しかしあらためてそれらが一堂にあつめられた展覧会を見ると、またあらたな感銘をうけずにはいられなかつた。なかでもっともつよく感じたのは、この画家が、生涯をつうじて何と正直に自分自身を作品の上に出し切つてゐかということであった。その仕事には、すこしの身がまえや策略もなく、率直に、大胆に、彼の素顔があらわれている。もちろんここには、外部か



蜂の軌跡

らのさまざまな影響や感化がみとめられるし、時期によって長谷川自身の制作の姿勢や思考も幾度か変転していることは、いうまでもない。しかしそれにもかかわらず、彼は一貫して自己に忠実に、ひたすら信ずるところをすんだようと思う。その仕事にアカデミズムの臭氣がみじんもうかがわれるのは、そのためだろう。そしてまたそれがゆえにこそ、個々の作品には未完成と思われるものがすくなくないにもかかわらず、生涯の仕事全體が、ずつしりした重みを感じさせるのである。

会場で会った菅井汲にこの印象を話した
ら、彼もわが意を得たりとばかりに、まったく同感だといついていた。

長谷川の仕事で、もつとも問題になるのは、昭和二十五六年頃からはじまるモノクロームの版画や拓本の作品だろう。

禅や書などの東洋的美意識への共感、イサム・ノグチやアメリカの批評家グリリの感化などがその動機としてあげられているが、この突如として起つた画風の変質には、それだけでは説明のつかない飛躍と深淵がある。

その仕事の意味をもうすこしつきつめて考えることが、たんに長谷川個人の問題ばかりでなく、芸術における東洋と西洋という大きなテーマの解決に、ひとつ手がかりをもたらすのではないかと思う。

神戸へ来た千田是也さん（演出家）を訪ねて

芝居の妙味は役者だね

★ボーンとほつたカツラが頭へコツーン

——神戸に初めていらつしやつたのはいつ頃ですか。

千田 築地小劇場の第一回旅公演が宝塚だったんです。今から五十年前。その頃の宝塚中劇場で演つたんですが

ね。もつて来たのはゲーリングの「海戦」や「牧場の花嫁」という一幕物でしたね。その頃です。

——じや、ずい分と昔の神戸もご存知ですね。

千田 そうなんですよ。神戸ってハイカラな町ですね。当時築地はハイカラで売り出していたので、神戸はまるで故郷のような感じがして、やたらに西洋の古道具屋を捲して歩くのが楽しみでした。その頃の築地の旅の楽しい場所の一つでしたね、神戸は。

——公演は宝塚で……。

千田 その頃、神戸では出来なかつたし、大阪でも出来なかつたですね。名古屋で演つて、宝塚で演つて帰つたんです。実はその頃のとつておきの話があるんだ（笑）

——なんですか、それは……。

千田 当時のカツラは全部、金で丸く出来るのね。それで夢中になつて「牧場の花嫁」を演つたとき、相手役のカツラが客席に落つこつたんだね。それを客がひろつてボーンと舞台へほつたら僕の頭へコツーンと当たつたんだね（笑）。こつちはそれに気がつかないぐらいに熱演していたんだね。それが多分、宝塚の中劇場なんだ（笑）。

——それは傑作ですね（笑）。そうすると、神戸も長いし、新劇も長いんですね。

千田 そうですね。新劇も今年で五十三年ですからね。それ以後は外国へ行つたりして、築地の旅ではあんまり

神戸へ来たことがないんですよ。

——じや、神戸は久しぶりなんですね。

千田 この前ここで初日を開けたのは福田義之の「新劇忠臣蔵」ですね。その後、私の演出したものは幾つか来ているんですが、こつちも年だし、もう慣れちゃつた芝居にはついて来ませんからね（笑）。

——その宝塚の頃は小山内薰先生とズツと二緒だったんですね。

千田 そうです。築地の最初の旅でしたからみんなついで來ましたね。

——その頃はマイクにしても何にしても、ハイカラといふか、今までにないことをやつていらつしやつたんですねが、どういう形なんですか。

千田 映画が一番勉強になりましたね。演出の青山先生なんかは西洋の映画をジット見ていて、女優がどういう倒れ方をするか、どういうキツスをしたか、そういうことの研究をしてそれを真似たんですね。小山内先生はモスクワ藝術座の「どん底」の絵葉書を持ってらして、それをつなぎ合わせて行くと殆んど芝居が出来ちやう。そこで、こういう風にあくびをしろ、とおっしゃるのでとにかくやってみて、あとで絵葉書を見るところとそ

いう風にあくびをしている（笑）。引き写しだすね、ゼ
スチューについて。

★「ルル」では女の原点を出したかった

——「ルル」はどんなきっかけで演出されたんですか。
千田 栗原小巻さんは十年近くうちの劇団にいながら、
演出する機会がなくて、まあ、今度は演ろうというので
小巻さんの勉強になるような、また、新局面が出るよう
な作品をと思って選んだんですが。日本ではあまり演ら
ないけれど、外国ではうるさい芝居でよく演ってるんで
すよ。

——初日はいかがでしたか。

千田 神戸文化中ホールというのはいいですね。関西で
は一番いいのじやないですか。ちようどいいぐらいの大

きさですし、舞台装置も最初からここを狙つてつくつて
ましたから思つた通りの舞台になつたし、装置をしてい
る安部真知さんも喜こんでましたよ。イメージ通りだつ
ていつてましたから。

お客様ってのは労演に来るのじやなく、俳優さんに来る
のじやなく、劇場に来るんですよ。そこに行つてみれば
何かかかっている場所が確立しますとお客様もそこを
中心に来るし、ある意味でそれが文化の中心になるし、
非常に大事ですよね、こういうものをつくるつてことは。
——小巻さんの新しい面をどういうところで発見なさい
ました。

千田 ご承知のように理智的な役を演る人でしよう。今
度は本当に、女の、何ていうか、原点みたいなものをど
れだけ出せるかと思っていたら案外うまく行つてゐるね。



神戸はハイカラな町だったので故郷のような感じがありましたね。

まないたちですが、それでも若い人がやることの方もつと新しいので、段々とおさまるところへおさまって行くようですね（笑）。

今度の芝居の面白いところは、今、新しがつて演つている大ものところがみんな出でているわけですよ。ウーマンリブの原点のような感じもするし、あらゆる写実芝居を乗り越えたお芝居らしいお芝居の面白さもたくさんありますね。この程度の新しさは僕にも出来る（笑）

——ところで先生のご趣味をお聞かせいただけませんか

千田 絵を画いたりするのが好きで、衣裳のデザインなんか自分で画いたりするんですね。自分の思いつきを絵で表わす方が手つとり速いですからね。デザインする人からいやがられるんですけどね（笑）。

他にはあんまりないです。酒は強いけど……（笑）。

——ウイスキーですか……。

千田 何でもです。目下は焼酎。くま焼酎。お湯で割つて飲むんです。毎晩、ダブルのウイスキーをコップに四はいぐら飲むかな。女房とふたりで……（笑）。

——スゴイ！（笑） ところでお芝居の醍醐味は何ですか
千田 何といつても役者ですね。自分も役者を演つたことのある演出家ですから、舞台で、人前で踊る面白さを十分知っているし。演出の仕事とは役者をハッスルさせることでね。思い通りハッスルしてくれたら楽しいんだけど、仲々思い通り行かないもんでね（笑）。

——これからはどんなことをおやりになりたいですか。
女優さんをシゴクとか（笑）。

千田 そういう人たちがまだ大分あまてるんですよ。

まだシゴかれずにいる人たちが（笑）。アングラの芝居なんかが流行つちやつて、イプセンとかヴェデキントとか我々が最初に勉強したことを見ないで来てしまった人たちがおりましてね。それが、アングラは今、凋落でしょう。それで何かこうガツチリとしたことをやりたいという人たちがいるのでそういう人たちの面倒を見るということが残っていますね。△神戸文化ホールにて△



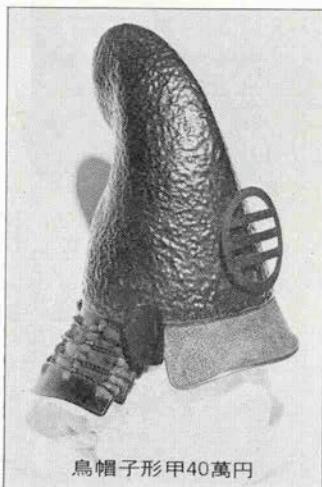
千田是也さんを囲んで。右手前が「ルル」でヒロインを演じた栗原小巻さん。

も早、彼女としてもこれまでに持っているものだけで売ることも出来ないから、本当の芸を見せる時期になつてしまっていますし、女優としてはここで勝負の時期になりますからね。もう。パーと花開くような女優さんが劇団としても欲しいです。素質は十分ありますからね。

——新劇も五十年という歴史が出来てきて、今までにないカラーというものをつくり上げたんですが、また、それが色々と小さな劇団に分かれて行つて根が張っているような感じですね。

千田 そうですね。まあ、五十年たつた新劇というのはおかしな話で新しいはずはないですよね（笑）。昔ながらの癖で私なんかいつも新しいことをしないと気が済

刀劍 古美術



鳥帽子形甲40萬円

鑑定・買入・刀剣・研磨 その他工作
一ヶ月仕上是非ご用命下さい。
お支払いに便利なローンをご利用下さい。

刀 剑
古 美 術
元町美術

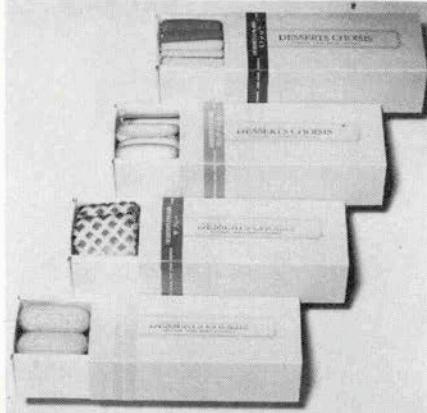
神戸市生田区元町通6丁目25番地

TEL 078-351-0081

DESSERTS CHOISIS

デセール ショアシ..

デセールショアシはひとつひとつがすばらしい味を誇るクッキーです。4種類がそれぞれ新しく紙箱で誕生しました。



上から スティック ¥500 ラング・デ・シャー ¥500
サブレー ¥500 チーズ ¥600

創業 80周年
80

神戸風月堂
神戸元町3丁目 (078) 321-5555

南北の流れを スムーズに

点から線、線から面への広がりを

今回は地元トアロードから加藤末一コロンバン社長・トアロード中央商店街振興組合理事長、沢田俊夫草薙園社長、ファッショニエ業界からサロン・デ・モード中西の中西省伍氏、そして、北野のローズガーデンのオーナー若山晴洋氏に座談をお願いし、以下はそれをまとめたものである。

★人間らしいやすらぎと豊かさのあるトアロード

最近、ファッショニエ都市づくりの重要なポイントとしてトアロードが再びクローズアップされてきた。地元の商店のみならず一般の神戸を愛する人々のトアロードに対する期待が最近とみに高くなつて来ている。

そういう状況のなかでこの八月初め、神戸商工会議所は神戸市に対して「シンボル・ロード（仮称）」の建設等都心部の街並整備に関する要望書」を提出。そのなかで「北野町界隈の景観保全並びにトア・ロードの景観設計を早急に具体化されたい」として、「三宮・元町の都心部と山手地域を結ぶ中心軸であるトア・ロードは、シンボル・ロードに交差する南北の縦軸として、歩道、街路樹の整備等、景観設計をすみやかにすすめられるとともに、自動車の交通規制についても検討されたい」として

いる。なお、ここでいうシンボル・ロードとは、新開地、神戸駅前、元町通、三宮（花時計を起点として）を結ぶ緑のプロムナードのことである。

今や、トアロードのイメージアップのために何かをやる実行段階であることは大方の異論はないが、問題はその中味である。元町、三宮界隈、特に三宮周辺は今、急変貌しつつあるが、これらとのコントラストをどう考えて行くか、となるとそこには様々な問題がある。

まず、ファッショニエ都市づくりという大きなプロジェクトのなかでのトアロードのもつ意義やウエイトはきわめて高いという点を押さえなければいけない。市街地再開発の例として三宮の高層ビル化が一つの前例としてあるが、果してあれがファッショニエ都市としての町づくりだといえるだろうか。神戸だけでなく全国どこにでも見られるような画一的なビルがどんどん出来て来ることに対する危惧は強い。

たとえば、東京あたりの人との話でもしばしば話題となるのは、神戸のトアロードは今、どうなつていいのかということだ。それほど神戸のトアロードはある種の郷愁をもつて神戸以外でも語られている。神戸でファッショニエに関する者にとって、トアロードにある種のノス

● 加藤 末一さん

● 若山 晴洋さん



● 中西 省伍さん

● 沢田 俊夫さん

タルジア、郷愁を感じるのはもつともなことだ。神戸をファッショント都市としてイメージするとき、トアロードが大きくクローズアップされて来るのは当然であろう。トアロードはアーケードのない通りである。青空を見ながらショッピングを楽しめる。外観だけでなく、内容にもふくらみがある。センスのいいブティックがある。中国人が家族でやっている美味しい中国料理店がある。

古道具屋がある。アトリエがある。各店一軒一軒が昔ながらのボリシーをもってしっかりした商店や活動をやっている町である。個性的なウインドーがあり、心のこもった商品を提供する町である。

そのトアロードの根底には神戸らしさがなければいけない。神戸らしさとはモダンでユニークな個性の開花だといつていいかも分らない。トアロードはユニークさを誇る神戸ファッショントマツカであつて欲しいし、外人俱楽部から海岸通りまで、共通のイメージをもつた何かが欲しい。

世の中が騒々しくなり、息苦しくなりつつあるとき、



トアロードの南北の流れをいかにスムーズにするかが問題だ

人間らしいやすらぎと豊かさが取り戻せる町になつて欲しい、昔は外人が親しんだ町だな……と回想しながら歩けるショッピングストリートになつて欲しい、との願いは市民一般のものであろう。ただ、既に建つてしまつたベンシルビルや公共施設などの無味乾燥な建物をどうするかは今後の問題だが。

★タテに歩いて楽しい町並に

トアロードは南北につなる坂の町である。ところが現状はどうであろうか。たとえば、東西に走る山手幹線、さらに高架をはさんだ東西の道路によって人の流れが分断されてしまつている。

山手幹線から上は西側には学校があり、住宅があり、東天閣のあたりから商店が始まる。山手幹線から上は住宅地域、下は商業地域と分かれているところにトアロードがタテにつながらない原因がある。たとえば、建物の建蔽率にしても上と下とでは違う。今まで上の方は発展しにくいようになつていて、行政は東西の発展しか考えていないのではないかという声は強い。

したがつて現状ではそれぞれが点としてしか動いていない。それをせめて線にまでもつて行きたいのだが、それにはやはり東西の交通規制をどうするかが大きな問題となろう。

トアロードにとって重要なのはタテの線で人々がスマーズに流れるということであるが、最近、北野界隈とのつながりがクローズアップされて來た。ここ二、三年の北野界隈の変化は目をみはるものがある。シャレたミニ・ショップが立ち並び、異人館がアクセントをつけ、ファッショント都市神戸にふさわしい顔をもちつつある。最近は北野トアロードという流れが次第に定着して來ている。北野の異人館通りで異人館を見たり、ミニ・ショップに立ち寄つたりしたあと、トアロードでお茶を飲んだり、買い物をしたりといふ人が急増しているとのことだ。北野界隈とトアロードがうまくジョイントして、

点から線へ、線から面へとふくらみをもつことが望ましい。タテに歩いて楽しい町並みになつて欲しい。これは北野、トアロードに関係する誰もが異口同音にいうことである。神戸は本来、坂の町なので、坂道を途中でズタズタに切るのは基本的におかしいのである。

★地元のボリシーを明確に

さて、では、具体的にトアロードの新たな町づくりについてどのようなことが考えられているのだろうか。

まず歩道の問題。これには、画家の石阪春生氏から御影石を敷いたらどうかというプランが出ているが、トアロードを一つのものとしてイメージづけるために南北にわたっての歩道の統一整備は一つのポイントになる。また、北野界限とのつながりでは、それを示す標示板の設置から、さらに、歩道の色や素材を統一すること、それとハッキリ分るようにするというアイディアもある。

次に街路灯の設置。昭和十二、三年頃、トアロードにはシャレた六角形の街路灯があつた。これは戦災で焼失してしまったが、特徴のある、現在でも通る斬新なデザインで、磨りガラス張り、鉄色で塗られていて、当時の元町のスズラン灯よりはるかに明るかったという。これを再現したい、という声もある。いずれにせよ、神戸では現在のところ夜、ウインドーショップビングを楽しみながらたとえば家族連れでゆっくりと散策の出来るところがない。そのためにも街路灯は必要であり、さらに、商店も夜遅くまで営業するか、あるいは、閉店後もワインドーショップビングが出来るような工夫が欲しい。また、銀行などにもウインドーの使い方を一考して欲しい。

さらに街路樹の整備。現在、トアロードにはネムの木が植わっている。これはこれでユニークなのだが、ネムの木は枝葉が傘のように広がるので下から見ると山が見えなくなることがある。だから、トアロードではむしろまつすぐに伸びる木の方がふさわしいのではないかといふ指摘もある。いずれにせよ、今はかなり歯抜けになつ

ているので早急に何とかしないといけないだろう。ところで、かつては今の外人俱楽部の位置にトア・ホーテルがあり、いわば、これがトアロードのシンボルになっていた。このトア・ホーテルを図案化したシンボルマークが欲しいという声や、また、いっぽ、トア・ホーテルの塔をシンボライズしたタワーを外人俱楽部のなかに建てられないのかとの意見もある。以前には、外人俱楽部の下から見上げて誰の目にもつくような噴水をつくって、上から下へ側溝を利用して水を流そうという話もあったようだ。

さらに、道路脇にアクセントとして彫刻が欲しいとの声。現在、大丸の東側に元町の木曜会によつてリスの彫刻がおかれているが、あの種のものが出来ないだろうかということだ。また、歩道に花壇をつくる。それもシンボンシーゼンで花の変わるのが好ましい。

以上のように、既に実行の段階であることを認識した上で、現状の問題点、将来の具体的なプランが色々と提出されたわけだが、こうして地元の人たちがトアロードはこうあるべきなんだという基本姿勢を明確に打ち出し自分たちのボリシーをハッキリと行政へ示す必要があるだろう。そのため地元で署名運動を展開しようとの提案もあつた。神戸市、神戸商工会議所、有識者、市民がトアロードに関心をもつて今、肝心の地元の意思表示がないのはおかしいというわけだ。

すでに見て来たように神戸商工会議所は北野界限を含めてトアロードの新しい町づくりに積極的な姿勢を示しているし、内外の声も高くなつて今、機は熟したと考えられる。

今後の地元としての取り組みは、単に地元のエゴだけで動くではなくて、広く市民サイドで考え、さらに、他地域とのつながりをも十分考慮した上で、ファッシュン都市神戸のメイン・ロードとしての名に恥じない町づくりを目指すということに結論づけられよう。

経済ポケット ジャーナル



★市営地下鉄山手線工事が

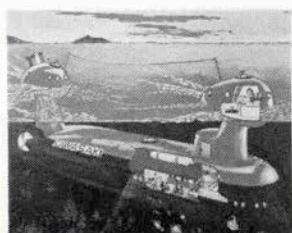
いよいよ着工

今年三月に営業を開始した市営地下鉄西神線（名谷—新長田間、全長五・七キロ）に続いて同山手線の工事が昭和五十六年完成を目指して十月初めに着工。

これは、新長田駅から国鉄新神戸駅を結ぶ全長七・七キロで、途中に長田、上沢、湊川、大倉山、県庁前、三宮、布引の七つの駅を建設。三宮駅ではポートアイランドと結ぶ新交通システムポートアーバイン線と接続する。

「都市交通は都市景観を考慮した乗って楽しく、見て美しいものであるべき」（安好匠、神戸市交通局長）との精神が今度の山手線にも取り入れられ、それぞれの駅のつくりにも趣好がこらされている。

鉄新神戸駅を結ぶ全長七・七キロで、途中に長田、上沢、湊川、大倉山、県庁前、三宮、布引の七つの駅を建設。三宮駅ではポートアイランドと結ぶ新交通システムポートアーバイン線と接続する。



新開通の山手線



「神戸の中堅100社」

から同神戸支社（中西平四郎支社長）編集による「神戸の中堅100社」という興味深い一冊が上梓された。

また、企業以外に神戸市民生協組、灘神戸生協組、兵庫県信用農業協組連合会の三団体も合わせて紹介されていて全国的に注目を浴びている神戸の代表的な中堅企業の実情を知るには極めて便利で、時宜にかなつた好出版といえよう。千円。

★潜水観光船の開発に

取り組む川崎重工

海中で遊泳する魚群や海中植物の様を身近かで見たい——とは誰しも考へることで、全体を機械、金属、化学、薬品、食品、酒造、織維、ファッショーン、貿易、流通、運輸、倉庫・建設、金融、情報、レジャーに分け、それぞれの企業を二頁にわたって紹介している。

★神戸の中堅企業100社を

分析

このほど日本経済新聞社

所々在地、資本金、事業概要、代表者名、主要取引先、

内容は設立年月日、事業する目的とする大型

公園などで広い地域にわたり海中を一般大衆に開放することを目的とする大型

潜水観光船の開発を行い、基本設計を完了した。

同観光船はタイプA／潜航式半潜水観光船、タイプB／昇降展望室付水中観光船、タイプC／曳航式昇降展望室付水中観光船、タイプD／半

潜水観光船、タイプE／曳航式半潜水観光船の五タイプあり、経済性、環境条件により使い分けることができる。

★「こうべ経済」創刊

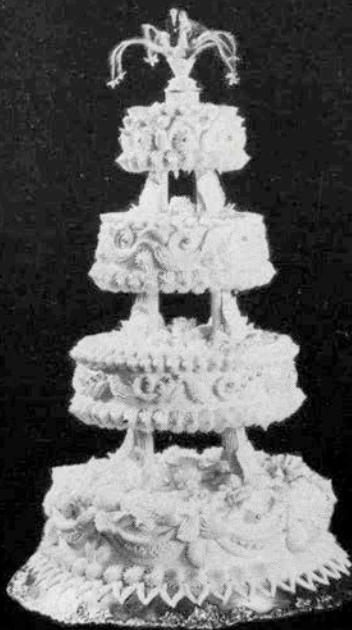
季刊誌「こうべ経済」が神戸市経済局商工課から創刊された。「神戸経済の動向を中心に、広く経済・経営問題をとりあげていただき」（宮崎神戸市長の創刊あいさつ）との主旨で、創刊号では「産業と文化」を特集、米山俊直「神戸文化と経済」、三浦保「神戸をなめたラカンドえ」をはじめ、時事的なものとして先日行われたバネルディスカッション「円高時代への対応策」の採録。その他、神戸市内経済動向分析結果や関係法令の動きなど、関係者のみでなく一般市民にも仲々興味深い内容となつており、「神戸経済を考える上での糧となつてほしい」と商工課では意欲を見せていく。A6版64頁。

きものと細貨

あんがら庵



純白無垢



ドイツ菓子 *Fachreim's*

ユーハイム

本三さん西 店 三宮 生田 神社 前 TEL (331)1694
本三さん西 店 三宮 大丸 前 TEL (331)2101
本三さん西 店 三宮地下街スウィーツタウン内 TEL (391)3539
本三さん西 店 フランクフルトゲーテハウス内 TEL (0611)280262

神戸 本部・仕入部
戸 さんちか店

市街地改造により工事中
市街地改造により工事中
神戸市生田区三宮町一丁目一 電話〇七八一四五二一五二九〇(代)
銀座コア店 東京都中央区銀座五丁目八一〇 電話〇三一五七三一五二九八(代)
渋谷東急店 東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一 電話〇三四七七三四〇九(直)
日本橋東急店 東京都中央区日本橋通一丁目九一 電話〇三一二一一〇五一(代)
池袋バルコ店 東京都豊島区南池袋二丁目二八一 電話〇三一九八七〇五六(直)
(四階きものコア) 東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一 電話〇三四七七三四〇九(直)
(四階和装名家街) 東京都中央区日本橋通一丁目九一 電話〇三一二一一〇五一(代)
(四階和装名家街) 東京都豊島区南池袋二丁目二八一 電話〇三一九八七〇五六(直)



□ インタビューオー

神戸つ子の人間模様を 風見鶏に。○

杉山義法さん（放送作家）にきく



風見鶏を見上げるきん（新井春美）と正一（山本茂）

いよいよ10月1日より神戸を舞台としたNHKの朝の連続テレビ小説「風見鶏」がスタートする。

神戸オリエントホテルに滞在して脚本を書きあげた作家の杉山義法さんを訪ね、神戸の印象やこぼれ話をインタビューしました。

★社会の波風をうける風見鶏が象徴的

——神戸には初めてですか。

杉山 3月に初めて来ましたが、何となく懐しくて初めて来たような気がしませんでしたね。というのは僕の中

学の建物が異人館みたいでしてね、ちょうど明治20年代の建物ですから。ハンター邸なんかに入ると中学校と同じ匂いがするんですよ。

——お生まれはどちらですか。

杉山 新潟の新発田市です。神戸と同じ港町だから雰囲

気が似てるんです。新潟も幕末に開港した街の一つですから。あの頃のモダニズムが全部神戸に残っているですよ。懐しいんですよ。

——今回の“風見鶏”はどういった動機からですか。

杉山 僕は7年生まれなんですが、大正・昭和の親達の世代を書きたいと思ったんです。

やるならぜひ一代記物と思っていましたから。

——“松浦ぎん”という女主人公のモデルは？

杉山 全くのフィクションです。

いろいろアイデアがあつたんですね。女性の一代記なら、風の中で毅然と立ち、時代に左右されることなくいろんな社会の波風をうける姿が象徴的ですね。

——日本女性の強さを表現したいということですか。

杉山 フロンティア精神があるんですね。戦後の混乱期に、積極的に外国のものをとり入れたり、外人と対等に面と向かってしゃべったのは女性でした。男は旗をもつて戦いに行き、旗が折れるとおかあちゃんどこへ戻るんですよ。(笑) 戦争の後始末をするのは女性ですね。現在の繁栄を支えているのは女性ってことかな。

——国際結婚をして、和歌山から神戸の街で生きぬいていくさんはどんな感じですか。

杉山 さんの生涯は決してハッピイじやなかつたんです。戦争が終わって何年かたつてみて、振り返ると自分には何も残っていないんです。いろんな人の為にいろんなことをやってきたという満足感はあるでしょうがね。

★ 探るほどに面白い神戸っ子の人間像

——今度の企画で神戸取材はいかがでしたか?

杉山 インド人と結婚したナンボーリアさんと会って話を聞いてきました。偶然、ナンボーリアさんも、英国人と結婚して亡くなられたエスター・ふく・ニュートンさんも和歌山出身なんですよ。和歌山っていうのは海に向かっている土地だから解放的なかな。

——漁師さんも多くて、どんどん海に出て行つてますね

杉山 それにあの頃日本に住んでた外人の吸つていうのはすごいですね。国際結婚っていうのはその社会情勢をもろにかぶるでしょう、だから面白いんです。

神戸はやはりいろんな人間模様が興味深いですね。ごちやごちやに混ざつて……。るっぽの吹きだまりっていうか、東西南北のいろんな人が集まってるのかな。

——土着の人は少ないんですよね。兵庫港の付近には土地っ子もいるんですが。

杉山 神戸弁っていうのは明るくてリズム感があるようですね。和歌山弁よりむしろ神戸弁っていうので松浦ぎんにはしゃべつてもらおうかと思ってるんですけど。

——神戸っ子っていうのは土地柄からして明るく、屈託がないですかね。

杉山 本当にそうですね。いろんなエピソードをもつたり、変わった生きざまの例が種々あるのに、本人達はそれほど特異な体験だと思ってないんですね。

——それじゃ、神戸を舞台ということで登場人物にも工夫があるんですか。

杉山 ええ、神戸らしさを表現するために、異人館風の北野ハウスっていうのをセットしたんです。そこにいろんな人物を住ませて、例えば四国からパリへ勉強をしに行こうとした画家が目的を果たさず神戸に滞在しているとか、横浜で異人さんの子供を産んで、ご主人を神戸まで追つかけてきた婦人とか、ぎんを追つて神戸にやつてきた活弁士なんか——これは岸部シローが演るんですが——

——賑やかそうですね。新開地では活弁が大変流行して



北野ハウスの住人たち。左より綾乃、管理人・米蔵、正一、一色、きん、よし江

思つて（笑）。今は書く方がいいですよ。

——テレビの面白さはどんなところかしら。

杉山 芝居と映画の中間みたいな熱氣があるんです。フィルムの世界と違って、スタジオドラマでは作家の息づかいが生であります。書き手の心理描写がっていうのが、特に連続ドラマなんかだと表われるようですね。無駄な時間つていうのがあるわけです。

——今までにどんな作品があるのですか。

杉山 「天と地と」「春の坂道」「妻たちの二・二六事件」「赤ひげ」「ふりむくな鶴吉」などです。

——ドキュメンタリータッチのものがお得意ですね。

杉山 そうですね。来年の一月からは井上ひさし作のソ連との合作映画『おろしや国酔夢談』の製作にかかる予定なんですね。

——『風見鶏』の脚本を書き上げられていかがですか。

杉山 風物的には異人館とか風見鶏がでてくるんですがあくまでも神戸カラーを人間模様というか人間像で出したいと思ってます。こんな人間がいたんだな、というようなものを出したかったんです。松浦ぎんの生き方を通して神戸の女性を表わしたい、朝のドラマなので暗いといけないんです。しかし悲しいときに明るく振舞うぎんをみていると、よけいに悲しさが出るんじやないかという声もあります。神戸の女性の反応が楽しみですね。



商船学校の酒保（売店）にぎん（新井春美）を訪ねたブルック（墓目良）

杉山 新開地周辺にはバラケツといわれていた人達が集まっていたんですね。面白い話を聞いたんです。メリケン波止場にトンプソン商会っていうのがあって、オーナーの外人がいつも着物の袖にキヤラメルを入れて花隈へ行き芸者衆に配つてたので、『キヤラメルさん』と親しまれていただんです。（笑）日本舞踊を研究したりへんな外人ですが、ユニークな人だったようですね。

★ぎんを通して爽やかな神戸の女性を

——杉山さんは放送作家をして活躍してこられたのです
が、どんなきっかけで？

杉山 もともとは映画監督になりたかったんで、日大芸術学部の映画科を出たんですが、30年頃は不景気でね、助監督を諦めたんです。それじゃ、映画の敵にならうと



作家の杉山義法さんと主演の新井春美さん

■杉山 義法（放送作家）

昭和7年、新潟県新発田市生まれ。
日本大学芸術学部映画科卒。

今までの主な作品に「天と地と」、「春の坂道」、
「ふりむくな鶴吉」、「赤ひげ」などがある。

現在東京に在住。